

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成28年2月12日 NO.90 (290)



オー君 「うわあー！おいしそうなチョコレートだ。いただきまーす。」

花ちゃん 「あ！ちょっと待って！食べる前にお勉強よ。」

オー君 「え？お勉強！食べたいよー。」

花ちゃん 「ちょっとがまん！いま、あちこちのコンビニ・駅やデパートでチョコレートが売られているのを知っていますか。」

オー君 「知ってるよ。バレンタインデーとかいうんでしょ。食べたいよー。」

花ちゃん 「そうよ。日本中のチョコレートの半分がこの時期に売られるそうよ。」

モンタ博士 「さすがは物知り花ちゃんだ。よく知ってるね。では、バレンタインって何のことも知っているのかな。」

花ちゃん 「もちろんですよ。バレンタインというのは人の名前で、ローマ時代の人で、その人が亡くなられた日なの。昔は亡くなられた2月14日のその日は死を悼む行事だったのですが、14世紀ころから若い人たちが愛の告白をする日になったとか、春になり小鳥のさえずりも始まるので、愛の日にあいさわしいといわれ、贈り物などをする日になったそうなんです。」

モンタ博士 「なるほど。くわしいね。感心だね。でも、なぜチョコレートなの。」

花ちゃん 「1958年2月にあるチョコレート会社がデパートで、「バレンタインセール」と手書きの看板を出したそうよ。その後、多くのことが関係して、『バレンタインデーにはチョコレート』ということになったそうよ。」

オー君 「へえー。そうなんだ。食べたいよー。」

花ちゃん 「ところでオー君。チョコレートは何からできているか知ってる。」

オー君 「チョコレートはチョコレートでしょ。食べたいよー。」

花ちゃん 「チョコレートはね、カカオの木の实から作るのよ。」

モンタ博士 「へえー。物知り花ちゃんは、チョコレート博士みたいだね。」

花ちゃん 「エッヘン。まかせてください。今から花ちゃん博士のお話のはじまりはじまりよ。カカオの木は学名で Theobroma Cacao というのよ。テオブロマとは『神様の食べ物』という意味で、王様や貴族、お金持ちの人しか食べられなかった貴重な食べ物だったのよ。」

オー君 「ぼくはお金持ちじゃないけど、食べたいよー。」

花ちゃん 「もう少し待ってね。カカオの木というのは、日本にはないのよ。」

オー君 「日本にはないの。それじゃどうするの。」

モンタ博士 「カカオの木がどこで生産されているかも調べたんだね。感心だね。」

花ちゃん 「もちろんです。まかせてください。カカオは、中南米や西アフリカ、東南アジアなど熱帯というあたたかい所にある木なんです。」

オー君 「ふーん。熱帯の植物なんだ。」

花ちゃん 「食べる前にここでクイズです。日本にはないカカオ豆は、もちろん外国から輸入していますが、83%も輸入している国はどこでしょう。」

オー君 「うーん。わからない。」

花ちゃん 「答えは、ガーナという国です。」

オー君 「ガーナ？そんな名前チョコレートあったよね。食べたいよー、と思うけど、チョコレートのことが少しずつわかってきたら楽しくなってきた。ところで、カカオの实と教えてくれたけど、どんな実なんですか。」

花ちゃん 「カカオの实というのは、大きさが20センチくらいで・・・。」

モンタ博士 「カカオの实なら、モンタ博士が本物を持っているから見せてあげるよ。」 つづく